



日本イーストウエストセンター同友会 The Japan EWC Association

ニューズレター 第5号

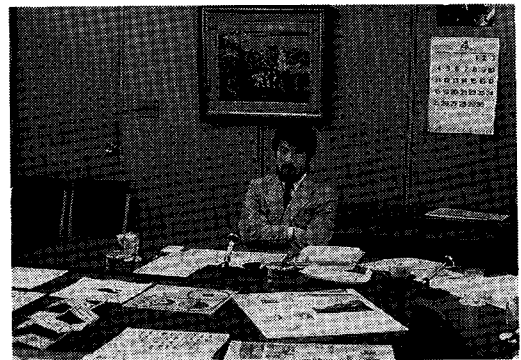
〈ご挨拶〉

変わらぬ敬意を覚えています

太 田 幸 夫
'78 Research fellow
グラフィックデザイナー

このたび日本イーストウエストセンター同友会会長に推されました太田幸夫(ゆきお)です。1978年9月から1979年1月までの半年間、イーストウエストセンターにおいて“Visualizing Global Interdependencies”と呼ぶ国際プロジェクトに、各国から招かれた5人のResearch Fellowの一人としてたずさわりました。人口・食糧問題、エネルギー・公害問題、あるいはコミュニケーション問題など、世界が直面する共通の課題に対処するため、今日ほど国際協調が必要な時代はないとの認識を、世界のデシジョン・メーカーやポリシー・メーカーに視覚的に訴えるプレゼンテーション・ツールを完成させたのです。

その後DeanになられたOpen GrantsのSumi Makeyさんとそのスタッフの皆さんには、その間、全面的にお世話になりました。文字や話ことばに代わる“視覚言語”開発のねらいがもとにあったので、成果品には全面的にグラフィック・シンボルを使用してビジュアル・シークエンスをととのえ、それに音響効果を盛り込んだほかは、ナレーションを一切入れない方針で仕



上げました。ところがSumi Makeyさんは最後になって、どうしてもナレーションを入れたものをつくってほしいと要請され、それにも応じたので、2種類出来ました。

帰国後、今はロンドンに行かれたエレン益子さんはじめ、日米教育委員会の皆さんのご協力で、アメリカン・センターにおいて発表会を催して、その2種類を映写しアンケートを取ったところ、おもしろい結果を得ていますので、折をみて皆さんにも知っていただきたいと考えています。

その後、国連大学がこのVGIに刺激されて

“Sharing for Survival”(「生存は分かち合いから」)という名のアニメーション・ビデオをつくりましたが、それ以外は、私が専門とする公共的なビジュアル・コミュニケーション・デザインの分野で特筆すべき成果は、世界中どこにも見あたりません。イーストウェストセンターは、国際サイン・シンボル計画の歴史の中で、一つのエポックを画しているのです。それ故私は、VGIのプロジェクトを立案・推進したイーストウェストセンターとその関係者に対して、変わらぬ敬意を覚えています。

「2年間の主要な活動と謝辞」

前会長 馬 場 房 子

1987年の秋から1989年の秋までの2年間にわたって、「日本イーストウェストセンター同友会」の会長を務めさせていただき、今回、太田幸夫氏('78)にバトンを渡すことができ大変うれしく思っております。その間、多くの方々から温かい御支持と御協力をいただき、心から感謝いたしております。

まず第1に、JR東日本の会長で、EWCのBoard of Governorでもあられる山下勇氏には、顧問として、貴重な御助言をいただきました。総会やイベントには、万障をお繰り合わせて、必ず出席して下さったことに、大変感激しております。お人柄の誠実さと温かさは、「日本イーストウェストセンター同友会」の象徴として、世の中に認めていただく時に、大きな力になって頂いたと感謝しております。山下勇氏を紹介して下さった三和義彦氏('80)に併せてお礼を申し上げます。

この気持ちを大切に、会長としての任期中、出来ることには努めたいと思います。すばらしい幹事の皆さん共々、馬場房子前会長も、国際EWCAの千本俤生前会長も、今後は副会長として私の至らないところを補って下さるとのことですので、心強い限りです。従来からの体制や成果を堅持しながら、会務の効率化と分散化をはかり、〈一人一人が少しづつ受け持つ〉仕組みにしたいと思います。目標や活動については、ひろく会員からの意見聴取に基づいて行きますので、どうかよろしく願いいたします。

第2に、同じく顧問の井手生氏('82)には幹事会やセミナー等を開くときに、会議室を使わせていただき、感謝いたしております。実は、高沢義行前会長の頃、「山王ビル」の日米教育委員会のオフィスを用いることが出来なくなり、どこか適当なオフィスを探していたのですが、何しろ経済的に無理であり、とにかく Mailing Address は、私のいる亜細亜大学でお引き受けしましたが、場所が都心から少し離れた武蔵境にあり、夕方から幹事会を開くのに不便でありますので、都心にある日本大学経済学部長である井手生氏に御相談しましたところ快く使わせていただけることになりました。ちなみに、昔は、EWC から日米教育委員会に経済的援助があったそうですが、今は全く無くなったのです。また、太田幸夫氏の会長任期中も、Mailing Address は引き続き亜細亜大学の私の研究室になっておりますので、併せてよろしく願い申し上げます。

第3に、会員間のコミュニケーションを効果的にする一つの方法として、「ニューズレター」を発行しました。1988年3月1日に創刊号、9月15日に第2号、1989年の4月15日に第3号、11月1日に第4号を出すことが出来ました。岡久子氏('65)と中村正枝氏('64)が、編集だけでなく配送まですべてやって下さいました。これにより、多くの会員の方々からお礼と励ましを頂き、旧交を温めたり、新しい交流が生まれました。

第4に、1989年の春に日本同友会の名簿を発行しました。神保尚武氏('69)の御尽力によるものです。名簿の充実は、時間のかかる仕事であり、会員の皆様を代表して、神保氏に心よりお礼を申し上げます。

第5に、セミナーでスピーチをして下さった永谷敏三氏('62)、内藤健三氏('62)、中村敦夫氏('65)、湊和夫氏('64)の4氏に心より感謝します。特に、中村敦夫氏は、EWCA への fund raising のためというもう一つの目的のために、貢献して下さいました。中村敦夫氏への依頼と当日の司会をつとめて下さった酒井洋子氏('64)に併せてお礼を申し上げます。

第6に、1989年7月15日にアーマコスト駐日大使のレセプションを行うにつきましては、渡辺晴子氏('77)に大変お世話になりました。川畑泰氏('75)がジャパントイムズでこのレセプションの写真を掲載して下さい、これにより、日本 EWC 同友会の存在を知って下さった方もあると思います。また、駐日大使のレセプションをするというアイデアを下されたのは、衛藤藩吉氏('88)であったことも、つけ加えさせて頂きます。

第7に、日本 EWC 同友会の副会長のまま国際 EWC 同友会の Chair になられた千本俤生氏('78)とは、バリ島での国際会議、ハワイでの第1回の Chapter Leaders Workshop をはじめ、すべての活動をともに考え実行して参りました。「世界の中の日本」がどうあるべきか、そして私たち日本 EWC 同友会に何が出来るのかについて、しばしば話し合いました。千本氏の御活躍に、心より敬意を表したいと思います。

第8に、幹事の皆様、本当に2年間ご苦勞さまでした。本当に御多忙な中、定期的に集まっていたいただき、手弁当で、知恵を絞って頂きました。おかげで、2年間、高沢前会長の時に、有志の方々(聞くところによりますと、高沢氏、神保氏、太田氏、鑑江氏など)のポケットマネーで始まった日本 EWC 同友会を存続・発展させることが出来ました。ありがとうございました。

第9に、会員の皆様にお礼を申し上げます。お便りや電話で励まして頂きました。そして、会費を納めて頂きました。それらによって、組織を活性化することが出来たのです。

最後に、太田幸夫氏に大いに期待しています。太田氏の作品は、たいていのビルの非常口のところにあります。日本 EWC 同友会も、太田氏の作品のように、広く知られるようになり、世界に貢献できるようになりたいと思います。会員の皆様の一層の御協力をお願い申し上げて、御挨拶とさせていただきます。

9

幹事会について

新会長の意向により、日本イーストウェストセンター同友会の幹事はそのほとんどが当座留任と決定いたしました。多少の変更或いは新任がありましたのでお知らせいたします。

1990年度日本イーストウェストセンター同友会幹事

名誉顧問	井 深 大	ソニー(株)取締役名誉会長
顧 問	山 下 勇	東日本旅客鉄道(株)代表取締役会長
	井 手 生 ('82)	日本大学経済学部教授
	高 沢 義 行 ('71)	(株)ノルディックジャパン代表取締役
会 長	太 田 幸 夫 ('78)	グラフィック・デザイナー、多摩美術大学講師
副 会 長	馬 場 房 子 ('63)	亜細亜大学経営学部教授
	千 本 倅 生 ('78)	第二電電(株)専務取締役
担当幹事		
組 織	永 井 健 ('61)	四国製紙(株)監査役
	石 沢 能 子 ('61)	東京家庭裁判所八王子支部
	大 山 綱 夫 ('62)	恵泉女学園短期大学英文科教授
	西 村 嘉 太 郎 ('63)	福島大学教育学部教授
企 画	田 代 成 義 ('63)	鹿島建設(株)国際事業本部専門部長
	飯 塚 成 彦 ('65)	白鷗大学助教授
	渡 辺 晴 子 ('79)	H. K. W. アジア新聞財団代表
	石 田 雅 近 ('84)	清泉女子大学文学部英文科助教授
渉 外	湊 和 夫 ('64)	お茶の水女子大学文教育学部助教授
	外 池 滋 生 ('73)	明治学院大学文学部教授
	三 和 義 彦 ('80)	野村総合研究所
広 報	川 畑 泰 ('75)	ジャパン・タイムズ報道部次長
	梅 田 純 一 ('82)	日本経済新聞社編集局国際第3部編集
	牧 野 賢 治 ('83)	毎日新聞社編集委員
会 計	鑑 江 龍 一 ('73)	衆議院参事(事務局渉外部渉外課)
名 簿	神 保 尚 武 ('69)	早稲田大学商学部教授
ニューズレター	中 村 正 枝 ('64)	日本工学アカデミー
	岡 久 子 ('65)	アップジョン ファーマシューティカルズ リミテッド
事務局長	浜 野 潔 ('85)	慶応義塾女子高等学校教諭
会計監査	高 田 宣 美 ('65)	国際医学情報センター課長

年度幹事

'61	石 沢 能 子	'70	長谷川 洋 一	'79	齋 藤 真理子
'62	富 田 光 彦	'71	加 藤 多 恵 子	'80	三 和 義 彦
'63	高 岡 宏	'72	石 塚 嘉 一	'81	榎 原 久 美 子
'64	中 村 正 枝	'73	鑑 江 龍 一	'82	梅 田 純 一
'65	岡 久 子	'74	野 口 泰 生	'83	牧 野 賢 治
'66	清 水 泰 子	'75	川 畑 泰	'84	石 田 雅 近
'67	野々垣 武 子	'76	山 下 道 子	'85	浜 野 潔
'68	仲 野 秀 志	'77	新 津 晃 一	'86	阿 部 一 知
'69	神 保 尚 武	'78	外 池 一 子	'87	西 川 正 郎

総 会 報 告



講演：湊 和夫氏

去る12月1日(金)午後6時30分から東京グリーンホテル・淡路町店において1989年度日本イーストウェストセンター同友会総会が行われました。出席者19名、委任状多数をもって成立し、顧問の山下勇氏、高沢義行氏にもご出席いただきました。まず最初に、馬場会長からニューズレター第3号、第4号の発行、3月の中村敦夫氏講演会、7月のアマコスト駐日大使ご夫妻歓迎午餐会など、1989年度の事業報告が行われました。引き続き、千本副会長(国際EWCA前会

長)から国際EWCAの活動の報告があり、また鑑江龍一氏から会計報告(詳細は別記)が行われ、収支が承認されました。

今年度は、幹事の任期満了となるため、次期会長として、グラフィック・デザイナーの太田幸夫氏(1978年OG)が満場一致で指名されました。また、それにともない事務局長が中村正枝氏から浜野へ交替いたしました。

総会終了後は、お茶の水女子大学の湊和夫氏による講演が行われました。元読売新聞論説委員というお立場から日米のマスコミにかんする興味深いお話を伺いました。乾杯後、歓談は尽きませんでしたが、会場の都合もあり9時過ぎ散会いたしました。(浜野 潔)

本年1月から事務局が交替しております。住所変更などの節はご面倒でも事務局までご一報下さい。また、会の活動にかんするご意見、幹事会への要望なども事務局宛てお寄せください。

事務局長 浜野 潔

(自宅 〒244 横浜市所塚区川上町412-1-231

TEL 045-823-6495)

会計報告

(1988. 11. 19~1989. 11. 30)

収入の部

前期から繰り越し	¥1,302,094
年会費	¥1,183,000 (265人分) *
総会 (1988. 11. 19) 参加費 (¥6,000×27人)	¥162,000
中村敦夫氏講演夕食会収益	¥192,000**
Armacost 駐日米国大使歓迎午餐会会費	¥630,000

合計 ¥3,469,094

支出の部

総会 (1988. 11. 19) 経費 (日本工業倶楽部)	¥144,004
EWCA への寄付 (送料を含む)	¥506,900
名簿発行・発送費用	¥750,355
講師謝礼 (中村敦夫氏)	¥30,000
EWCA への寄付 (上記講演会収益、送料)	¥198,845

Newsletter 第3号発行・発送費用	¥176,687
ア大使午餐会通知印刷・発送費用	¥56,553
〃 経費 (アラスカ)	¥1,123,400
Newsletter 第4号発行・発送費用	¥238,277
各種印刷物発送時アルバイト代、連絡切手代等	¥82,927

合計 ¥3,307,948

収支残高 ¥3,469,094 - ¥3,307,948 = ¥161,146

*年会費内訳 ¥5,000×194 = ¥970,000
¥3,000×71 = ¥213,000 (関西、中部、沖縄支部会員)

小計 ¥1,183,000

**中村敦夫氏講演夕食会収益は中村氏よりの寄付¥60,000を含む。

以上

会計 鑑江 龍一 ㊞

明日は、今日より面白い。

人類の住む星・地球には、言葉も文化も歴史も気候も違う国々が、200近くもあります。
 私たちの願いは、こうしたひとつひとつの国を理解し、その発展に役立つこと。
 世界の子供たちの未来に、等しく夢と幸せを築くこと。
 明日は、今日より面白い。
 すべての人々に、そんな期待を抱かせる地球ドラマを演出するために、
 三井物産は今日も歩みつづけます。

もっとコミュニケーション、世界の心へ。
三井物産

偉大な発見も
上手に伝えてはじめて
実を結びます。

どんなに斬新なアイデアが生まれたとしても、どんなに素晴らしい新製品が出来上がったとしても、それをたくみに人々に伝えることができなければ、せっかくのビジネスチャンスも逃げていってしまうでしょう。私たちは三菱商事100%出資会社として皆様のコミュニケーション開拓のお手伝いをさせていただきたいと考えています。広告の企画制作やパンフレット制作でしたらおまかせください。PRビデオ等の映像分野もお手のものです。私たちの豊かな経験とノウハウにぜひご相談ください。

MC Communications Inc.

〒100 東京都千代田区丸の内2の6の2 TEL.03-210-2509 FAX.03-210-8841

「目標」「活動」について ご一報を

日本 EWC 同友会はこれまで、総額200万円におよぶ Fund Raising への協力を組織としておこなってきました。またアマコスト駐日米国大使歓迎の午餐会や中村敦夫氏の講演会、そして永谷敬三博士や内藤健三氏、湊和夫氏のセミナーなどを開催してきました。ニューズレターは、今回で5号をかぞえ、会員名簿も年々充実してまいりました。サブ・チャプターは関西、中部、沖縄に結成され、東京の Japan Chapter との連携も進展しつつあります。世界から400名を集めた Bali Conference には日本から30名が出席、Fund Raising のむずかしさや、26の Chapter のうち4分の1だけが活発との現状克服の課題が話し合われました。EWC とのかかわりの長期・短期の意識のズレも話題にのぼったそうです。

そしてこのたび馬場前会長から太田にバトンを渡されましたが、さっそくハワイでもたれた国際 EWCA 主催の Chapter Leaders Meeting (1990.2.11~14)には、下記の要旨の意見を文書で送付することで出席は見合わせ、代りに国際理事会と兼ねて千本俸生副会長にご出席ねがいました。

1. ニューズレターの刊行や名簿の充実など継続的活動の成果を堅持する。
2. 講演会やセミナーなどイベントの実績を今後共継承する。
3. サブ・チャプターとの連携を保ち発展させる。
4. EWCA から申し入れがあった Regional Conference は日本での開催を今年は見合わせる。ただし近い将来、日本が主催できるよう検討していく。

5. Fund Raising について今後は日本 EWC 同友会として寄付に代わる上納方式を考えたい。それにより寄付を集める仕事から解放され、EWCA 本部との2本立てで寄付要請がなされていた混乱が解消する。寄付行為はあくまで個人でのみおこなわれるものとし、日本 EWC 同友会としては年会費の収入の一部を上納するかたちの早期実現に努める。

大体以上ですが、今後の「目標」や「活動」については、ぜひ皆様からご意見をいただいで決めていきたいと思ひます。そして少しづつ役割をもち合うことによって一部の人に負担が集中しない組織にできればなによりです。そのためにも「自分は何ができるか」にもひとことふれたご意見をハガキで結構ですからこの会報の最後(奥付)に記したところまでお寄せください。どうかよろしくお願ひいたします。

(太田幸夫)

会員の声

外池滋生
(新幹事)

帰国してかれこれ10年以上の歳月が流れ、その間に日本の経済力が飛躍的に増大し、国際社会への貢献を求められる時代になりました。センターで過ごした数年間がいろいろな楽しい思い出になっているばかりでなく、現在の仕事にも大いに役だっていることを考えれば、私も何らかの形で、恩返しができるかと思ひ、時に個人的にささやかながら寄付をしたりしていますが、同友会としても何か出来ることがあるのではないかと考え、差し出がましいこととは承知の上、筆を取りました。

二つ提案があります。一つは同友会の年会費は現在ニューズレターの発行、さまざまな催し

などに生かされていますが、それに加えて毎年ささやかではあっても、ずっと続けることができる額のお金を同友会の名前でセンターに寄付しては如何でしょうか。それも「ひもつき」にして、センターでの何かのプロジェクトに援助金を出すとか、あるいはアジアの国々からの学生に援助するとかというようにその使途が明確になるようにするのも一案かとも思ひます。

もう一つは同友会には東京で催しを行うことのほかに、それぞれの地域で会員同士の交流の輪が広がることを助けるという重要な役目があると思ひます。ニューズレターや名簿はそのような目的に活用されてこそ意味があると思ひます。そこで、現在の年度幹事に加えて、地域幹事になって下さる人を募って、それぞれの地域で旧交を暖め、新交を結ぶ集い(パーティ)を肩を張らずに、こじんまりと始めては如何でしょうか。そしてそういう会をやる度に会費の中から余った(余らせた)分を同友会の本部に「上納」し、同時にニューズレターにその会の日時と場所と出席者を報告することにしては如何でしょうか。これで集まるお金がどれほどのものになるかは分かりませんが、これを同友会の会費からの分に加えて寄付をすればいいと思ひます。これによって会員同士の交流を盛んにするという会の目的に沿うばかりでなく、センターに対して恩返しができることにもなります。

個人で寄付をするのは結構面倒なもので、その気はあってもきっかけがないとついそのまま放置するのが人の常です。また個人で寄付をするとなると一人で千円、二千円というわけにも行かず、その点でのためらいもあるでしょう。しかしこのやり方であれば一人千円分を負担するだけでも日本全国各地でこのような会が行われれば、かなりの額になり、送金もまとめて同友会の本部で年1回行うだけで済みます。この提案を役員の方が検討されて、実行して下さることを期待します。しかしどうでしょう、役員

から号令がかかるのを待たずに、この案に賛同下さる会員の方々が早速名簿を見て近くにいる会員何人かに声をかけて、勝手にパーティをやって、そして勝手に「上納金」と報告を本部に送りつけては如何でしょうか。(そのためにも名簿に地域別(郵便番号)による索引があると便利です。)

会員の著書・訳書

「スフィア」マイクル・クライトン著、中野圭二訳、早川書房、1989。¥1,900。

「アンドロメダ病原体」の作者による久方ぶりの新作。海底に発見されたSF的な存在物と見たものが、いつのまにか人間の意識下の世界とつながってくるちょっと恐ろしい話。(事務局)

「ホテル・ニューハンプシャー」ジョン・アーヴィング著、中野圭二訳、上下、新潮文庫、1989。各¥560。

レイブ(輪姦)された女子高生が立ち直るまでの、本人と一家をめぐる波瀾に富んだ、恐いけれど面白おかしい、優しさあふれるおとぎ話。作者のレイブに対する激しい怒りが底流にある。(事務局)

「マニラの鼻」中村敦夫著、講談社、1989。¥1,200。

「チェンマイの首」「ジャカルタの目」に続く国際情報小説の第3弾。激動のフィリピンを舞台にご存知情報部員の堂田が、悪徳商人、ゲリラ、人民軍などの暗闘に飛び込んで活躍する。政治はもちろん、麻薬、暴力、色模様満載のアクション小説。堂々

のエンターテイメントである。(‘64酒井洋子)

「コーカサスの風」(旅行記) 中村敦夫著、テレビ朝日、1989。¥1,500。

ユネスコのシルクロード調査隊に加わった著者の、ウクライナからカスピ海沿岸にいたる走行7500キロの旅の見聞録。中村氏特有の大胆で直截な語り口、ユーモラスな叙述に思わず吹き出し、豊富な写真に悠久のシルクロードが目に浮んでくる……。 (‘64酒井洋子)

「New Yorker's English——ニューヨーカーにな

る本」 草野淳著、三修社、1989。¥1,100。

EWC'84年度の草野淳氏が、産経新聞ニューヨーク特派員の2年半の間に、日々の暮らしやニュース取材の中で拾い集めた“生きた英語”表現と、そこに反映されているアメリカ人社会の世相、ニューヨーカーたちのライフスタイルを、エッセイ風に描いた読み物。どの話も英語の表現から入っていくのですが、こなれた訳付き。その社会背景も語られていて、肩のこらない、ニューヨークのにおいがしてくるような本です。(‘63馬場房子)

名簿訂正

Page

- 4 本間 恵子 (住所) 〒986 宮城県石巻市泉町4丁目13-6-402
- 7 (新) Gniffke, Frank L. (自宅 tel) 03-444-6100 (Office tel) 03-587-2900
(職業) 弁護士
- 7 井上 肇 (住所) 桜丘→桜ヶ丘
- 8 宮内 猛 (住所) 川崎市→川越市
- 9 仲宗根せいぜん(名前) せいぜん→政善 (住所) 那覇市松川1-5-17
- 9 西 利昭 (住所) 和歌山市塩屋6-2-16
- 9 能登原昭夫 (勤務先) 山陽学園短大
- 9 大森 元吉 (住所) 〒358 入間市下藤沢1314-3-806 (tel) 0429-65-4008
- 10 白崎 寿郎 (住所) 札幌市北区屯田5条9-4-3
- 14 中村 正枝 (住居表示変更) 横浜市緑区美しが丘西3-39-4
- 15 富山 正治 (住所) 富山市豊田豊岡町22-21
- 16 福林 昌身 (住所) 〒177 練馬区上石神井1-8-2-705
- 16 川島 武宣 (自宅住所) 〒158 世田谷区深沢7-22-28
- 19 吉田 進 (住所に追加) 住友化学千歳船橋寮
- 27 柳沢 慧二 (住所) 〒275習志野市藤崎3-8-10
- 29 吉田 一晴 (住所) 那覇市若狭町3-3-27
- 30 金子 順一 (住所) 〒654 神戸市須磨区離宮西町2丁目5-16-208
(tel) 078-732-7052 (勤務先) ホテルオークラ神戸販売促進部
(tel) 078-333-0111

- 31 中沢 保 1986年死去
- 36 松村 幹男 (住所) 広島市南区皆実町4-13-19
- 37 斎藤 栄二 (住所) 京都市伏見区桃山町泰長老 桃山東合同宿舎617
- 38 高仲 顕 (〒) 465
- 38 土屋 圭造 (住所) 〒301 竜ヶ崎市長山6-16-6
- 40 磯本 泰三 (姓) 磯本→磯本
- 44 長谷川崇彦 (姓) 長谷川→長谷山
- 44 小松 左京 (住所) 箕面市粟生新家5-25-22
- 51 (新) Akridge, P. Bai (自宅 tel) 03-452-1568 (Office tel) 03-438-5942
(勤務先) IBM(Asia-Pacific Group Headquarter)
- 51 上原 秀樹 (住所) 〒203 東久留米市南沢2-11-9
- 52 関 清秀 (住所) 〒062 札幌市豊平区月寒西1条5丁目
- 52 安田 聖 (住所) 〒181 三鷹市新川6丁目38三鷹第2住宅2-302号
(勤務先) 一橋大学経済研究所附属日本経済統計情報センター
(tel) 0425-72-1101
- 53 中臣 久 1989年10月よりベトナム赴任中
- 53 大塚ただお (名前) ただお→唯男 (勤務先) 日本電気事業研究国際協力機構
- 53 (新) 中山恵津子 〒569 高槻市藤の里町9-3
- 53 山本やすし (名前) やすし→泰 (住所) 〒180武蔵野市吉祥寺町3-21-8-202
- 54 古橋 政子 (勤務先) 京都精華大学
- 54 原 よしお (勤務先) 〒104 中央区新川1-3-7六甲ビル#27階 日本産業研究所
- 54 井手 生 (自宅住所) 〒284 千葉県四街道市旭が丘4-24-1
(tel) 0434-32-9040
- 55 小川こういち (名前) こういち→浩一
- 55 山本恵理子 (名前) 恵理子→恵里子 (住所) 〒465 名古屋市名東区名東本通4-45
ドリーム名東7B号 (tel) 052-701-2522
- 55 吉田 徳久 (住所) 〒951 新潟市関屋金鉢山町53-1
- 56 佐藤都喜子 (住所) 新宿区市ヶ谷本村町10-5 (勤務先) 国際協力センタービル
(tel) 03-267-3201
- 57 草野 淳 (勤務先) 産経新聞社編集局外信部編集委員
- 57 鈴木たかひろ (名前) たかひろ→崇弘 (勤務先変更) 笹川平和財団
(tel) 03-769-2081